

ULM 交換留学報告書

法文学部人文学科 4 回生

氏名： 坪野 未菜

1. はじめに

本報告書では、2017 年 8 月から 2018 年 5 月にかけて参加した ULM 交換留学プログラムで学んだこと、それを今後どのように活かしていくかについてご報告させていただきます。また、今回は国際連携課から長期留学奨学金を頂いたことで、大変有意義で実りある留学生活を送ることが出来ました。ここに謹んで御礼申し上げます。

2. 本留学の目的・目標

2-1. 目的

私は将来教育に関わる仕事に就きたいという夢に向けて、現在大学院進学を考えています。私の専攻分野において有名な海外の大学で学びたいと思っており、そのために必要な語学力、専門的な知識、学問的経験、国際性を身に付けるために ULM 交換留を決意しました。

2-2. 目標

私は上記の目的を達成するために 3 つの具体的な目標を掲げていました。第一に、TOEFL iBT で 100 点を取り、海外の大学院が設ける英語レベルの規定を満たすこと。第二に、サークルや学生団体への参加など、主体的な活動を行うこと。第三に、留学生を対象とした ESL 科目に限らず、正規科目で愛媛大学での「秀」に当たる成績“A”を目指して勉学に励むこと。

ULM 留学における私の目標達成のために、以上のサブゴールを設定していました。本レポートでは、上記の目的及び目標の達成度合いを示すため、以下に交換留学中の私の活動内容を報告いたします。

3. 留学中の様子

3-1. ULM 交換留学の広報活動

交換留学中は、愛媛大学の英語プロフェッショナルコースのホームページ内で「ルイジアナ便り」を掲載させていただきました。これは ULM での留學生活の様子を定期的にお伝えすることで、交換留学に興味のある愛大の学生に対し、情報提供をするという目的で行いました。具体的には、授業のレベル、寮生活、学内の行事などについて写真つきのブログ形式で掲載させていただきました。

また、ルース先生にもご協力頂き、ミューズ入口のモニターにおいても広報活動をさせていただきました。ULM での生活や費用など、交換留学を希望する学生の疑問点を解決できるような内容にしました。

このような広報活動をする中で、愛大の学生数名から直接連絡があり、さらに詳しい留学情報をメールでお伝えしました。私自身の ULM での経験を踏まえて、留学に興味がある学生のお役に少しでも立てたならば嬉しく思います。

また、今後 ULM に派遣される学生が希望されるならば、寮や授業の様子及び必要事項など、私の知る限りの情報提供をさせていただきます。ULM 留学を通して、予期しない出来事があったり、前もって知っていればよかったと思ったりすることが多々あり

ました。長期の留学では不安や心配もあるでしょうから、何らかの形で学生をサポートし、充実した留学生活を送って頂きたいと思います。

3-2. USPTO 職場見学

冬休みを利用して、ワシントン DC にある United States Patent and Trademark Office (米国特許商標庁/USPTO) にて、職場見学をさせて頂きました。特許の翻訳部のオフィスに訪問させて頂き、世界中から申請された特許を英語へと翻訳するお仕事を間近で拝見しました。オフィスでは多くの方が働かれていて、5か国以上の翻訳を担当されているスタッフも少なくありませんでした。そのようなスタッフの方々とお話させて頂き、語学学習のモチベーションが上がったように思います。彼らは、言語学習に終わりはなく、自分で限界点を作らず学ぶ続ける限り、英語だけでなく複数の言語を習得できるようになるという事を示す、素晴らしいロールモデルだと感じました。

また、私は自身の専攻分野に関する教育関係の職業に予てより興味がありました。しかし、教育とは異なる分野の職業を間近で見ることで、自分の職業選択の視野が広がったように感じます。特に USPTO での特許翻訳の作業は高度にプロフェッショナルで、特許に関する書類はたとえその言語のネイティブスピーカーが読んでも簡単には理解できないようなレベルでした。特許の翻訳者になるには数年に及ぶトレーニングを要するそうです。どの分野においても言えることですが、努力を重ねてプロフェッショナルなレベルに達した方の姿は自信に溢れ、私が思想とする将来像だと感じました。

今夏、USPTO の職員の方々が日本にいらっしゃる際には、またご一緒させて頂くことになっています。特許翻訳の仕事を含む今後のキャリアや言語学習について良いアドバイスを頂いたり、彼らの日本滞在中は私が日本の街を案内したり、このような有意義な人脈を留学中に築けたことを嬉しく思います。

3-3. AAAL2018 への参加



(AAAL2018 会場にて)

3月24日から27日にかけてイリノイ州シカゴにて催された American Association for Applied Linguistics 2018 (AAAL2018)に参加しました。これは、私が専攻する第二言語習得理論(SLA)を含む応用言語学の学会で、毎年アメリカで開催されています。愛媛大学からは中山晃先生が参加されていて、会場でご一緒させて頂きました。会場では、世界中からいらっしゃった著名な教授や研究者の最新の研究結果やプロジェクトの発表を聞くことが出来ました。発表は多くの聴衆がいるプレゼンテーション型と、数人で行うポスター発表形式、そして大々的に執り行う特別公演形のものがありました。普段、ゼミの授業で取り扱う教科書や論文を書かれているような有名な先生方の発表を聞くだけでなく、個人的にお話しさせて頂く大変貴重な機会を得ることが出来ました。

アメリカ、日本を含む世界中の大学院から大学院生も発表をしに来ており、大学卒業後は海外の大学院に進学したい私にとって、彼らとの交流はとても有意義で、これにより自分の近い将来像がますますはっきりしたように思います。

今後は、AAAL2018での経験をもとに、日本国内の学会にも参加して、これまでの自身の研究論文を発表できるよう準備をしていきます。学会での発表経歴は、私が志望する海外の大学院入学時にも評価されるため、SLAの分野での大学院進学という私のULM留学の本来の目的達成に向けてのステップを確実に踏んでいこうと思います。

3-4. Emerging Scholars Program

Emerging Scholars ProgramとはULMで募集されている数ある奨学金プログラムの一つです。1学期間、ULMの教授と共同でプロジェクトを立ち上げ実行し、献身的な活動内容が認められれば一人当たり\$400の奨学金が支給されます。私は、スペイン語とESLクラスを受け持つAdam Majors教授と共に、ESLクラスのネパール人受講者を対象とした第二言語習得に関する研究を行い論文にまとめています。Adam Majors教授はスペイン語が専門の先生で、大学院では私の専攻と同じ第二言語習得の分野も学んでいらっしゃいました。彼はとてもフレンドリーな方で、彼のスペイン語の授業も受講していたため、よくお世話になっていました。私が大学院進学したいという希望も聞いてくださって、そのための準備として、適格な内容のプロジェクトと一緒に考えて頂きました。

プロジェクトの具体的な内容は、量的手法を用いたESLクラスにおけるプラグマティックリサーチです。ネパール人英語学習者の動機付けが、教室内での暗示的な英語指導に対する理解度にどのような影響を及ぼすかについて調査しました。調査の結果、被験者の数が限られたため、言語学習への動機付けの度合いと暗示的指導への理解度との間に有意な相関関係は見えなかったものの、テレビ番組や映画などの媒体を用いて暗示的な英語指導に一定の効果が見られました。

この奨学金プログラムでは、学術的調査を実際に自分で行いまとめるというとても有意義な経験ができました。量的データの扱い方、アンケートを用いた調査、アカデミックな文章を英語で書くことなど、今後の自分の進路に役立つスキルを磨きました。協力して頂いた教授、被験者の学生たちに感謝するとともに、このような素晴らしい機会に恵まれたことは、今後の目標である大学院進学への決意をさらに強めることとなりました。

4. まとめ

第3節では、留学中の主な活動を報告させて頂きました。それ以外にも、留学生をサポートする“Global Ambassador”の活動や、“Downtown Gallery Crawl”という学外のコミュニティイベントへの参加、アニマルシェルターでの動物保護のボランティア活動、様々な著名人の講演会の聴講などにも積極的に参加しました。

また、心理学、芸術史、英語、ユニバーシティセミナーなどの正規科目でAの成績も修めることが出来ました。“Dean’s list”という成績優秀者のリストに日本人代表として名前が載っており、正規授業で結果を残すという当初の目標が達成できたと思います。

現在は大学院進学に向けて、必要条件を満たすために日々努力しています。TOEFL iBTも先日受験し、現在結果を待っているところです。

以上を踏まえると、留学当初に設定していた目的及び目標は十分に果たせたのではないかと思います。

5. おわりに

本報告書では、愛媛大学より長期留学奨学金を頂き、大変実りある留学経験が積めたことに対する感謝と、交換留学における成果をまとめさせて頂きました。

以上、ULM 交換留学の報告とさせていただきます。



(留学生や International Office の方の集まり)



(サンクスギビングのイベント)